
離れゆく二人の涙模様

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

離れゆく二人の涙模様

【Nコード】

N6926B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

あたしは、どんなことを言われても、どんな目で見られても、先生が好き。生徒と先生という関係なんて…。

「岡先生！」

「…藤崎。どうした？」

「先生の顔、見ところと思って」

「ああ、…もう卒業か」

「うん。明日でこの三年もおしまい。先生ともあんまり会えなくなっちゃうのになって思ったらどうしても先生の顔見たくなって…。
ごめんね」

「いや、大丈夫。座ったら？」

「ありがと。ねえ、先生？」

「ん？」

「先生は、どう思う？」

「それは寂しいよ、すごくね」

「それで？ 寂しいときは、どうするの？」

「わからないよ」

「でも、卒業したらあたしは先生の生徒じゃないんだよ？」

「いや、君はずっと僕の生徒だよ」

「違うよ。もう学校、終わりだもん」

「じゃあ、僕たちも終わりだ」

「…え？」

「もし、君が卒業してただの元教え子になっただとしても、今こうしてる過去は消えない」

「そうだけど…。それは二人の秘密なんだから大丈夫だよ。絶対にばれないようにしたもん！」

「ばれるとか、そういうんじゃないよ。大切なのは、事実がどうであるか」

「先生、それは違う。本当に大切なのは、愛してるかどうかだよ」

「…それがいけないんだ。僕は君を愛している。だけどそれは、あってはならない事実なんだよ」

「じゃあ、もしあたしが同じようにこの学校で先生をやってたらかったの？ そしたら、ずっと、愛してくれていたの？」

「その話に答えても、意味なんてないよ」

「先生、そんな人じゃなかった…」

「僕は、教師であることを忘れて個人の感情で君を愛した。君にとって、もしそれがずっと胸に抱いていたい事実なら、それは教師、人間として失格な僕も表裏一体に存在する。きつと、それをずっと抱き続けたらいずれ君は崩壊してしまう。―いや、きつと僕がさせてしまう。だったら、今、まだ長くその気持ちを抱いていないうちに終わりにしたほうが君のためになる。本当にごめん。全てを捨てる覚悟なんだ」

「…はは、ははは、先生！ 大人のくせに泣いてるよ？」

「…うん。なんか、目が痛い」

「素直に寂しいって、言ってる？」

「…寂しい」

「あたしも。…あつ、そうだ先生、マイナスドライバーとかない？」

「え？ ちょっと待って」

「うん」

「…たしかこの中に…あつた。はい」

「さんきゅ。…んー…どうなってんだろうこれ…。よいしょっ！」

「あ、なにしてるの」

「時計の解体。よし、止まった、止まった」

「電池とつたら使えないよ」

「うん。…はい、先生。ほんとに入学のときにお父さんが買ってくれたものんだけど…あげる。ちゃんと日付もはいつてるからね、この日、この時を、まあ…絶対に忘れないでねっていうことで」

「ありがとう」

「いいえ。それじゃあ、あたし行くね。ばいばい」

「ああ、それじゃあ…また明日」

「うん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6926b/>

離れゆく二人の涙模様

2010年10月31日02時17分発行